

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

小坪小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、平均正答率 61%で、県の平均 65.2%を下回っている。特に、2三ア「みじかい」を漢字で書き直す問題は 66.7%で、県の 76.4%より 9.7%、2三イ「ふしぎ」は 40.4%で、県の 42.9%より 2.5%下回っている。
- 「文章の特徴として適切なものを選択する」問題では、71.9 パーセントと、県の平均を 6%下回っており、話や文章の種類とその特徴について理解する力にも課題が見られる。
漢字を「知っている」だけでなく、文脈に応じて適切な漢字を選び、実際に文章の中で使う力を高める必要がある。

《情報の扱い方に関する事項》

- 「情報の扱い方に関する事項」は平均正答率 50%で、県の平均 53.3%を 3.3%下回った。2二「考えとそれを支える理由や事例など、情報と情報との関係について理解する」問題は 42.1%と県の 49.0%を、6.9%下回っている。
文章の内容を理解するだけでなく、「どの情報がどの考えを支えているのか」など、情報同士の関係を捉える学習を充実させる必要がある。

《話すこと・聞くこと》

- 「話すこと・聞くこと」は平均正答率 70.2%で、県の平均 66.9%を 3.3%上回った。
1一「構成メモの工夫」は 77.2%と、県の 74.6%を 2.6%、1二（1）「動画の工夫」は 75.4%で県の 61.7%を 13.7%上回った。
- 1二（2）「動画の太字で囲んだ部分の工夫」の平均正答率は 57.9%と、県の 64.4%を 6.5%下回っている。
資料を活用して相手に伝わるよう表現を工夫する力は身に付いている一方、表現の工夫について、その意図や効果まで捉えることに課題が残る。

《書くこと》

- 「書くこと」は平均正答率 47.4%で、県の平均 46.3%との差が 1.1%とほぼ同程度であった。2四「集めた情報から引用して、自分の考えが伝わるように書く」は 35.1%と県の 32.3%を 2 パーセント上回っている。
- 「書くこと」に関する問題の無答率の平均は、選択式、記述式などの回答の形式にかかわらず、県の平均より 6.6%高くなっている。
「書くこと」の正答率は県とほぼ同程度だが、無答率は県より高い。自分の考えを文章にして表現することに課題がみられる。

《読むこと》

○「読むこと」は平均正答率 65.8%で、県の平均 66.2%との差が-0.4%とほぼ同程度であった。

3 二「情報と情報との関係付けの仕方などを理解し使う」は 57.9%で県 57.5%を 0.4%、3 三（１）「目的に応じて必要な情報を見付ける」は 61.4%で県 58.6%を 2.8%上回った。

●「書くこと」にも関連している、3 三（２）「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く」記述式の回答は、正答率が 70.2%であった一方、無解答率は 24.6%と高かった。

文章や資料から必要な情報を捉える力は一定程度身に付いている。一方、情報を捉えた後、それらを関係付けて自分の考えにする学習には、さらに取り組む必要がある。

《児童質問紙 国語に関する質問》

○国語の授業の内容について、「分かる」と感じている児童が多い。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」では、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」という肯定的な回答が 87.5%で、県の 82.3%より、5.2%上回っている。また、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についても、肯定的な回答が 91.1%と 9 割を超えているが、「当てはまる」と回答した割合（39.3%）は県の平均（57.2%）より低く、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合が高かった。

国語の学習の必要性や授業内容については肯定的に捉えているが、強い実感をもっている児童ばかりではないことがわかる。

●児童自身の学習の課題や、その改善方法について、教師から具体的に伝えてもらっているという実感には課題が見られる。

国語の授業で「良いところや、前よりもできるようになったところを先生が伝えてくれる」では、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」という肯定的な回答が 78.6%で、県の 77.9%とほぼ同程度であるが、「学習のうまくできていないところを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる」では肯定的な回答は 66.1%で、県 74.0%と比べると 7.9%下回っている。

できたことを認めるだけでなく、児童が自分の課題に気づき、次にどのように学習すればよいかを具体的に考えられるような働きかけを、さらに大切にしていきたい。

【 算数 】

《数と計算》

○「数と計算」は平均正答率 66.9%で、神奈川県62.6%を4.3%上回った。3（４）

「単位分数の個数に着目し数直線を目盛りを読む」は、78.9%で、県の69.4%を9.5%、2（１）「四捨五入して概数で表す」は73.7%で県の66.2%を7.5%、上回った。また、3（２）「小数の減法」も64.9%で、県59.1%を5.8%上回り、基本的な数の仕組みや計算については、概ね身に付いていることがうかがえる。

- 3 (3) 「 $7/3$ と $7/4$ の大小を判断し、そのわけを書く」は 平均正答率が43.9%で、県の44.7%をやや下回った。

異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて説明することに難しさを感じていることが分かる。

《図形》

- 「図形」は平均正答率64.0%で、県の57.0%を7パーセント上回った。

特に1 (3) 「 1cm^3 の立方体36個でできた直方体の体積」は 61.4%で、県の44.9%を16.5%と大きく上回った。単位となる立方体の個数と体積を関連付けて具体的にイメージしてえることができていている児童が多いことがうかがえる。また、1 (4) 「直方体の辺の長さに着目して送料を求める」は、平均正答率54.4%で県の48.2%を6.2%上回っている。

図形の構成要素に着目して考える力は、かなりついているといえる。

- 一方で、図形の出題4問の無答率が平均で6.8%ある。記述式の回答の無答率が一番多く、5.8%となっている。

自分の考えを文章にして説明することに課題が見られる。

《測定》

- 「測定」は平均正答率84.2%で、県79.7%より4.5%上回っている。

示された情報から必要な数量の関係を捉え、条件に合う時間を求める力が身に付いているといえる。

《変化と関係》

- 「変化と関係」は平均正答率49.7%で、県の44.2%より5.5%上回っている。特に、2 (2) 「14匹が全体の20%に当たるとき、全体の匹数を求める」の正答率は68.4%と、県の55.5%より、12.9%上回っている。

割合と比較量から基準量を求めることについては、比較的よく理解できている児童が多い、と考えられる。

- 県の平均と比較すると上回ってはいるものの、正答率そのものは5割程度にとどまっている。また、出題数3問の平均無答率は、8.2%と、県の4.3%を3.9%上回っている。

割合や単位量当たりの大きさについて、式を計算することはできても、その式が何を表しているのか、数量同士がどのような関係になっているのかを捉えることに課題がある。

《データの活用》

- 「データの活用」は平均正答率50.9%で、県の49.4%、とほぼ同程度である。「示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題は、県の平均より6.2%、「集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の数と言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題」は県の平均より4.1%上回っている。

- 「帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかを見る問題」では県の平均を4.7%下回っている。

表やグラフを「読む」だけでなく、複数の情報や条件を組み合わせで考え、答えを判断する、学習を充実させる必要がある。

《児童質問紙 算数に関する質問》

○算数の学習について、肯定的に捉えている児童が多い。

「算数の勉強は得意ですか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は合わせて64.2%、「算数の勉強は好きですか」という質問では、肯定的な回答が57.2%で、どちらも県の平均とほぼ同等だった。算数の学力調査では、本校の正答率は62%と、県を4ポイント上回っている。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的な回答が87.5%で、県の77.1%を10.4ポイント上回った。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問でも、89.3%が肯定的な回答で、県の90.9%とほぼ同じ割合であった。

算数の授業内容や必要性については比較的肯定的に捉えている一方、「得意」「好き」という意識は県とほぼ同程度である。今後は、授業内容の理解を、算数を学ぶ楽しさや「できる」という実感につなげていきたい。

●算数で学んだことを、生活や問題解決に生かすことに課題がある。

「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか」という質問では、肯定的な回答が78.6%で、県の83.9%を5.3%下回った。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか」とについても78.6%で、県の80.6%をやや下回っている。

算数の授業内容は「分かる」と感じている一方で、それを実生活に生かしたり、分からない問題に対して粘り強く解決方法を考えたりすることについては、さらに伸ばしていく余地がある。

●図を活用して考えを整理し、説明する力に課題がある。

知識・技能の正答率が66.5%で県の正答率61.5%を5%上回るのに対し、思考・判断・表現は49.1%となっており、考えを説明したり、理由を表現したりすることに課題が見られた。今後は、答えを求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのようにして答えを求めたのか」を言葉や式、図などを用いて説明する活動を授業の中に意識的に取り入れていく必要がある。その一方で、「図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか」という質問では、肯定的な回答が91.0%で、県の87.8%を3.2%上回った。

図を問題解決のための手掛かりとして捉えている児童が多いことから、今後はこのよさを生かし、図や数直線を用いて自分の考えを整理したり、友達に説明したりする学習につなげていきたい。

◎児童質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等

○「自分には、よいところがあると思うか」という質問では、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合は94.7%で、県の平均より8.9%上回った。また、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童も96.5%で、自分自身を肯定的に捉えており、人の役に立ちたいという思いをもっている児童が多いことが、特徴として挙げら

れる。

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」については、肯定的な回答が100%であった。

友達や周囲の人を大切にしようとする意識は、概ね高いものと考えられる。

- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童は91.1%で、県の81.0%を10.1%上回っている。

身近なことに関心をもち、社会のために何かしてみようとしたりする意識が育っていることがうかがえる。

- ICT機器を活用した学習については、「情報を整理したり、発表したりすることがどのくらいあったか」という質問で、肯定的な回答が60.7%で、県の51.3%を9.4%上回っている。また、「情報を整理して発表するためにICT機器を使った」とする回答も82.1%で、県の71.0%を11.15%上回っている。

これまでの授業において、ICT機器を単に使うだけでなく、情報を整理し、自分の考えを伝えるために活用する経験が積み重ねられていることがうかがえる。

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童の割合は75.0%で、県の78.7%を3.7%下回った。また、「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」と回答した割合は53.6%で、県の67.4%を13.8%下回っている。

友達と考えを交流することについては一定の肯定的な意識がある一方、自分とは異なる考えを安心して表現できる学級の雰囲気づくりについては、さらに力を入れていく必要がある。互いの考えの違いを認め合い、それをもとに考えを深める授業づくりを進めていきたい。

- 教師の関わりについては、「先生は、間違えたところや理解していないところについて、分かるように教えてくれる」と回答した児童の割合が78.6%で、神奈川県85.2%を、6.6%下回った。特に、「当てはまる」と回答した割合は30.4%で、神奈川県44.7%、との差が大きかった。

児童が自分の学びの状況を把握し、次の学びにつなげられるよう、具体的な評価や助言の在り方について、教職員で改めて考えていく必要がある。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

① 安心して自分の考えを表現し、互いの考えを認め合う学級づくり

児童質問紙では、「自分にはよいところがある」と感じている児童や、人の役に立ちたいと考えている児童が多い一方で、「人と違う意見を言っても否定されない」と感じている児童の割合は、県を下回った。また、「自分と違う意見について考えることは楽しい」という項目についても、県をやや下回っている。

児童一人ひとりの考えや感じ方の違いを認め合い、安心して自分の考えを表現できる学級づくりを進める。友達の考えを聞いて自分の考えを深めたり、異なる考えのよさに気付いたりする活動を大切にしていく。

② 学んだことを振り返り、次の学習や生活につなげる授業づくり

「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えること」や、「話を生かして自分が努力すべきことに取り組むこと」については、県を下回る結果となった。また、算数では授業内容を「よく分かる」と感じている児童が多い一方、学習したことを普段の生活で活用していると感じる児童は県を下回っている。

今後は、「何を学んだか」だけでなく、「何ができるようになったか」「どこに生かせるか」「次に何をしてみたいか」を考える振り返りを充実させる。児童が自分の学びを捉え、次の学習や生活につなげられる授業を目指していく。

③ 児童の学びを支える教師の関わりとフィードバックの充実

「先生は、間違えたところや理解していないところについて、分かるように教えてくれる」や、国語における「うまくできていないところと、どう改善すればよいかを先生が伝える」という項目では、県を下回る結果となった。

児童が自分のよさや成長だけでなく、現在の課題や改善の方法についても具体的に捉えられるよう、授業中の声かけやノートへのコメント、個別の指導など、教師からのフィードバックの在り方を見直していく。児童が「次はこうしてみよう」と思えるような関わりを大切にしていきたい。

④ ICT等を効果的に活用し、「分かる・できる」を「好き・もっと学びたい」につなげる授業改善

ICT機器については、情報を整理したり発表したりする活動や、情報を整理して発表するための活用について、県を上回る結果となった。これは本校の授業におけるICT活用の積み重ねによる強みと考えられる。一方、国語では「授業内容はよく分かる」と回答する児童が多いものの、「好き」「得意」と感じる児童は県を下回り、算数でも「分かる」「得意」に比べ、「好き」や「生活に活用している」という実感には課題が見られた。

ICTを含む様々な学習方法を効果的に活用し、児童が自分の考えを表現したり、友達の考えと比べたり、学んだことを実際に生かしたりする場面を充実させる。「分かる・できる」だけでなく、「考えることが楽しい」「もっと学びたい」と感じられる授業を目指していく。